

記載例

社会課題の解決と企業成長の同時実現に関する事業評価

<解決しようとする社会課題とアプローチ方法>

フードロスを減らすためのアプリ開発事業

<社会課題解決に向けた事業活動と見込まれる自社への経済効果>

【社会課題解決に向けた現在の事業活動】

飲食店舗などで「売れ残った」「余った」食材が発生した際に、アプリ登録者に連絡が行き、その登録者が購入することでロスを発生させない、フードロス削減に向けたアプリを開発を進めている。開発にあたっては、新部署を立ち上げるとともに、新技術開発に向け複数の飲食店とも連携を行い、製品の開発に取り組んでいる。フードロスの削減を通じて、飲食店等の利益率の向上が実現できていることに加え、自社の売上向上にもつながり、雇用の確保にもつながる。

【社会課題解決に向けた挑戦的な事業活動】

より多くの飲食店での利用が進められるよう、飲食店への営業活動を広く周知を行い、市内の飲食事業者の■割が利用いただけるように努める。さらに、どのエリアでどの程度のフードロスが削減できたのかが一目でわかるマップやグラフ化ができるツールの開発などを進め、幅広い年齢層が活用できるよう利便性を向上させることで、市内全体でのフードロス削減に向けた行動変容につなげていく。

【見込まれる自社への経済効果】

フードロス削減に賛同する新たな顧客が増え、取引数が増加する見込み。新たな取組を実施することで、関係各所からの注目が集まる可能性があり、環境にも配慮した取組を実施している企業としてのイメージアップも期待できることから、従業員数の増加を見込んでいる。

【事業活動のロジックモデル】

別紙にて記載

<事業活動を通じて5年後に目指す自社の姿>

フードロス削減のフロントランナーとして、同業他社との差別化が図られ、情報通信業を代表する社会課題解決型の企業となり、顧客から選ばれている。

<事業活動を通じた自社の挑戦的な目標>

社会課題解決に向けた目標			
指標	分野	環境	自社製品によるフードロス削減量
現状	2023	年	前年比10%減
目標	2028	年	2023年比40%減

企業成長に向けた目標			
指標	分野	経済	新規顧客の獲得数(年間)
現状	2023	年	30件/年
目標	2028	年	300件/年

<事業活動を通じて見込まれる地域社会へのインパクト>

分野	見込まれる地域社会へのインパクト内容
環境	当アプリを市内多くの飲食店等に利用していただくことにより、札幌市全体のフードロスの減少が見込まれる。
社会	フードロス対策に取り組む企業のロールモデルとして積極的に発信していくことで、札幌市の魅力あるまちづくりに貢献する。
経済	市内飲食店のフードロスが削減されることで、市内飲食店の利益率が向上することが見込まれる。

<地域社会へのインパクトに関連するSDGsのゴール>

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
	○						○	○		○	○	○				

記載例

事業活動のロジックモデル

事業活動	事業活動のロジックモデル			
	インプット 事業活動を行うために必要な資源(人材、モノ、資金)	→ 行動 事業活動を行うために必要な行動	→ アウトプット 行動によって生まれるモノ・サービス・状態	→ アウトカム 事業活動が目的としている効果
フードロス減らすためのアプリ開発事業	現在の事業活動 市内飲食店との連携体制の構築	→ 試作品の開発	→ アプリの完成	→ 新規顧客の獲得 売上増による従業員の増
	現在の事業活動 新部署の立ち上げ、従業員〇〇人配置			
	事業戦略的行動 市内飲食店との連携体制の構築	→ 広報媒体の検討、営業活動の強化	→ アプリの認知度向上	→ フードロスの削減の促進
		→ フードロス発生状況マップツールの開発	→ どのエリアでどの程度フードロスが発生しているのか、状況の見える化を実現	→ 幅広い年齢層のアプリの活用促進